

平成25年度

第58回長野県中学校連合教科研究会

# 道 徳

## 目 次

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	研究の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名・・・・・・・・	1
IV	討議題と討議内容・・・・・・・・・・・・・・・・	2
V	本年度の反省と来年度の方向・・・・・・・・	7
VI	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・	8

## I 研究テーマ

魅力ある道徳の時間の創造

～生徒のとらえを生かした多様な授業展開の構想と効果的な資料の開発～

## II 趣旨

- (1) 生徒の姿や心情をもとに道徳の授業を構築していく方向を大切にしたい。特に、生徒のもつ良さを捉えたり、生徒の姿に寄り添ったりした上で、資料づくりや展開を図っていく方向にしたい。そのことによって学習している生徒が「楽しかった」「学んで良かった」と思える授業をめざしていきたい。
- (2) 生徒の実態把握とねらいを明確にして、生徒が道徳的な価値を主体的に追求できる単元展開や一時間の授業の展開を工夫し、生徒にとって魅力ある道徳の授業を紹介し合いたい。
- (3) 評価の実際について意見交換し、望ましい評価方法について明らかにしていきたい。
- (4) 「多様な学習活動」にかかわって、日々の授業に役立ちそうなエピソード的な内容も盛り込むことも可能とする。また、「道徳の時間」の実践を中心とするものの、道徳教育全般を研究の対象とする。

## III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名

### (1) 第1分科会

指導者 甘利 尚之 先生（北信教育事務所指導主事） 司会者 芝野 崇 先生（八千穂町立八千穂中学校） 記録者 上條 春城 先生（松本市立筑摩野中学校） 世話係 鎌倉 大和 先生（附属長野中学校）				
番号	地区	学校名	氏名	研究テーマ〔学年・資料・内容項目〕
1	佐久	八千穂中	芝野 崇	司会者（レポートなし）
2	上小	塩田中	兼原 康光	友だちと関わり合う中で、生徒が喜びを持って、自らの生き方を求めていく道徳学習のあり方 〔1年「片腕のラグーマン」2－（3）〕
3	安曇野	豊科南中	松島 千尋	レポートなし
4	長野	東部中	増田 貢一	生き方を教える道徳の授業の構想 〔3年「いのちの力をつかまえろ」3－（1）〕
5		若穂中	武田 洋幸	学ぶ意欲を高め確かな力を身につける授業づくり 〔2年「共に生きるということ」4－（5）〕
6		附属長野中	鎌倉 大和	自己と対話し、自己を見返していく力を高める指導のあり方 〔1年「カーテンの向こう」2－（2）〕
7	松本	旭町中	伊藤 美雪	友の考えにふれ、自己に問いかけながら道徳的心情を高めていく指導のあり方 〔1年「涼風」2－（6）〕
8		筑摩野中	上條 春城	記録者（レポートなし）
9	上伊那	飯島中	武井 正樹	仲間と関わり合う中で、自分自身の姿を見つめ、自他のよさに気づき道徳性を高め合える生徒を育てるにはどうしたらよいか 〔3年「償い」1－（3）〕

(2) 第2分科会

指導者 黒沢 幸喜 先生 (教学指導課) 司会者 千野 正和 先生 (松本市立信明中学校) 記録者 今村 善隆 先生 (安曇野市立豊科中学校) 世話係 内川 才 先生 (附属松本中学校)				
番号	地区	学校名	氏名	研究テーマ〔学年・資料・内容項目〕
1	諏訪	富士見中	小菅 孝奈	考え合う場面設定や、道徳の授業におけるグループ学習の在り方 〔3年「洋子さんのこと」2-(3)〕
2	上小	第四中	橋爪 志織	道徳的価値の自覚を深め、自信を持たせる授業展開の在り方 〔1年「勇気ある一言」4-(3)〕
3	安曇野	豊科北中	今村 善隆	記録者 (レポートなし)
4	上水内	飯綱中	高野 健人	いろいろな見方・考え方をもとに、自他を大切に する意識を高めていく人権教育 〔1年「友のよさをみつけよう」2-(5)〕
5	長野	東北中	飯嶋 香織	モラルスキルトレーニングを取り入れた道徳学 習の在り方 〔1年「私と清掃」4-(5)〕
6		北部中	平林 孝太	レポートなし
7	松本	信明中	千野 正和	司会者 (レポートなし)
8		附属松本中	内川 才	学級の仲間と思いを伝え合い、自分らしさに出 会う道徳の学習 〔3年「私が頑張れるとき」1-(2)〕

IV 討議題と協議内容

【第1分科会】

**討議題1** よさをベースに出発する道徳の授業は道徳的価値を深めることにつながるか。

(1) 発表

- ① 飯島町立飯島中学校の実践より (発表者：武井正樹先生)
- ② 長野市立若穂中学校の実践より (発表者：武田洋幸先生)

(2) 協議で深まったこと

- ・「反省道徳」は、教師にとっても生徒にとっても苦しい。 → 道徳の授業は、おもしろくない。
- ・よさの自覚から出発することで、子どもたちが語りやすくなる。さらに、事前に自分のよさに対する思いを掘り起こすことで、子どもたちがよく語るようになる。
- ・本時でねらう道徳的価値を焦点化する導入での発問が大切。
- ・少人数であることにより、全体よりも話しやすく、道徳的価値の深化・統合に有効である。
- ・自分や仲間の生活をふりかえりながら、よさを認め合う活動を継続することで、道徳的価値の深まりにつながる。
- ・アンケートは、生徒の道徳的価値の自覚がどの程度深まっているのかを把握するものであり、資料ありきのアンケートでない。
- ・資料を読めば読むほど、見えなくなることも・・・子どもたちの素朴な疑問に目を向ける。この資料で、どのような道徳的価値の深まりをねらうのかを明確にする。場合によっては、分割して資料提示することで、子どもたちの道徳的価値の深まりにつながる。

(3) 甘利尚之指導主事先生よりご指導

- ・道徳の授業では、道徳的実践力を育むために、道徳的価値の自覚を深めることと、人間としての生き方の自覚を深めることが必要。そのためには、「自分自身の生き方の振り返り」が必要不可欠。その際大切なのは、押しつけられた「反省」ではなく「主体的に自分から振り返る」こと。自分から「よくなろう」と思えなければ、よくなるはない。
- ・「自分のよさの自覚」は、道徳的実践力につながる。生徒が、道徳の時間に「自分のよさ」を自覚するためには、全教育活動を通じた道徳教育によって、よさ（道徳性）を育てていることが必要。自身の行為のよさを教師の評価・位置づけによって、自己肯定的に認識していることが大切になってくる。（小学校低学年は、なんでも褒める。小学校高学年は、自主的な行動を褒める。中学生は、自主的かつ本人が努力した行動を褒める。）評価については、授業中の変容を連続的に捉えて行く。その基本にあるのは、個の把握。

**討議題 2** 生き方の芯となる規範を力のある資料で育む道徳の授業はどうあったらよいか。

(1) 発表

- ① 長野市立東部中学校の実践より（発表者：増田貢一先生）

(2) 協議で深まったこと

- ・模擬授業を通し発表をしてくださり、分かりやすかった。
- ・考えられるボランティア活動を挙げる際の支援や停滞した教室の雰囲気打破する手だてはどうあったらよいか。
- ・写真提示以外に・・・主人公を自分に近い人物として捉える時間をとる。被災者の困り感をおさえる。「どのようなことに困っていたの？」という切り返し。正解・不正解にこだわらせない。

(3) 甘利尚之指導主事先生よりご指導

- ・「規範意識」という重点的な内容をすえた道徳教育・教材の開発と活用の創意工夫がすばらしい。
- ・より考えを深めるために・・・生徒による「価値観の交流」の場を設定してみる。ねらいの根底には、生徒に自覚を深めてほしい道徳的価値があり、そこから生徒観・資料観を明らかにする。

**討議題 3** 道徳の授業における班活動・班学習のあり方

(1) 発表

- ① 松本市立旭町中学校の実践より（発表者：伊藤美雪先生）

- ② 上田市立塩田中学校の実践より（発表者：兼原康光先生）

(2) 協議で深まったこと

- ・子どもの自然な疑問やつぶやきから発展する道徳の授業によって、班学習の必要感が生まれる。
- ・場面発問とテーマ発問を使い分ける。「自分だったらどうする？」でなく、資料の登場人物に重ねて自分の考えを語らせる発問がよいのではないかな？
- ・班学習が長すぎてもよくない。沈黙するということは、班学習に必要感がないということではないかな？話したいと思うような発問をしたい。
- ・班活動で学習を活性化させ、自分の変化や道徳的価値の深まりが実感できる授業を目指したい。
- ・班活動で導入したロールプレイは、多少差はあったが、比較的素直に取り組んだ。資料を扱う前に実施。ロールプレイを導入するよさは、登場人物の台詞からその想いを擬似体験できる点。また、雰囲気を和ませ、考えを語りやすくする点。体感することで、理解できることがある。

(3) 甘利尚之指導主事先生よりご指導

- ・中心発問を考える前段階として、明確な指導観（価値観・生徒観・資料観）をもつ。その上で、中心発問だけでなく、補助発問・問い返しも併せて考える。

- ・班活動は、多様な価値観に触れられることに利点がある。しかし、教師の支援が入りづらいことに難点がある。教師の目的（生徒の必要感）・論点・方法を明確にすることが大切。
- ・ロールプレイは、擬似体験・資料理解等、目的を考えて導入する。ただし、それだけで完結することがないように注意する。

#### **討議題 4** 相手意識をもち続け、それを様々な場面で行動につなげていこうとする意識を大切に する手だて

##### (1) 発表

① 信州大学教育学部附属長野中学校の実践より（発表者：鎌倉大和先生）

##### (2) 協議で深まったこと

- ・同じ道徳的価値について連続的に授業で扱い、自己の経験を登場人物の行為に重ねて考えた思いを書きため、それを基に友と意見交換する道徳の授業を構想した。
- ・扱った道徳的価値については確かな意識の高まりを感じるが、他の道徳的価値との関連という点で偏りはある。また、飽和状態にならないように、扱う資料の順番を工夫する必要も感じる。
- ・生徒の思考変化を捉える有効な手だてとなる。しかし、シートに示されている対比項目が、必ずしも相対するとは言えず、混乱を招いてしまう危険性もはらんでいる。

##### (3) 甘利尚之指導主事先生よりご指導

- ・「心の問い返しシート」のよさは、「内容項目相互の計画的・発展的指導につながる点」「意欲につながる点」「資料との対話・友との会話・自己との対話につながる点」「言語活動の充実につながる点」である。
- ・「道徳の時間の学習の構想」のよさは、「アンケートをふまえて、生徒の実態にそった計画である点」「同じ道徳的価値を連続して扱う授業が、生徒の道徳性を発展的に育てることにつながる点」「各視点間に関連性をもたせて指導していこうとしている点」「1時間ごとのねらいや手だてを明確に示している点」である。今後は、道徳の時間だけで完結させず、全教育活動との関連を考えていくとさらによい。

（文責者 松本市立筑摩野中学校 上條春城）

### 【第2分科会】

#### **討議題 1** 道徳的価値の自覚を深め、自信を持たせる授業展開の在り方

##### (1) 発表

① 上田第四中学校の実践より（発表者：橋爪志織先生）

##### (2) 協議で深まったこと

- ・「自分でもできるんだ」という思いの生まれる授業展開を考え、道徳的实践力を高めたい。
- ・道徳の授業やその他の場面で、例えばいじめ等に対しては、安心して「それはだめだ」といえる雰囲気づくりを普段の生活の中で行うことも大切である。その手立てとして、学級内等で「人権宣言」や「いじめ撲滅宣言」等を作成することも考えられる。
- ・自分が生徒だったら楽しいと思えるような授業展開を目指し、授業が堅苦しくならない雰囲気づくりが必要である。そのためにも、日常生活の中から子どもたちが何を考えたがっているのか、何に思いを馳せているのかを読み取りたい。そのことが、生徒と共に学び、心を共有できる時間に繋がるのではないか。

##### (3) 黒沢幸喜先生よりご指導

- ・『主人公はすごい』でも『自分では…』で終わってしまうことがある。そのことを防ぐために、

道徳的価値の自覚については、道徳的価値の理解を確認した上で、人間理解や他者理解を深める必要がある。道徳の時間とは、様々な場面で行われる道徳教育を、全体にわたって調和的に補充・深化・統合を行う時間である。その上で、道徳で押さえるべき3つの理解を大切にしていきたい。それは、「道徳的価値理解」に加え、「人間理解」「他者理解」である。

- ・道徳的価値の大切さに気づいたり、再確認したりすることで人間らしさを育むことになる。その上で、人間とかかわる中で道徳的価値を捉えることにより、大切さは分かるがその実現の難しさにも気づくようになる。この段階で終わるのではなく、実現に向けて多様な考えを巡らせ、その価値を自分なりに発展させていく授業の展開を目指したい。そのことが、実践に向けての意欲・態度を身につけることに繋がり、道徳的実践力を身につけることになる。
- ・道徳の資料には主に、2つのパターンがある。1つ目は資料中の出来事によって価値観が変わる資料である。もう一方は道徳的な内容項目が一貫しているもので、徐々にその価値が高まっていくものである。このことを理解して資料分析を行ったり、授業展開を考えたりすることが大切である。また、主人公の心情に寄せて資料を扱うことが一般的である。しかし、そのことを理解した上で、脇役となる登場人物の心情に寄せることも可能であるし、その場合には、一層しっかりとした吟味をおこなう必要がある。

## **討議題2** 考え合う場面設定や、道徳の授業におけるグループ学習の在り方

### (1) 発表

- ① 富士見中学校の実践より（発表者：小菅孝奈先生）

### (2) 協議で深まったこと

- ・全体の場では自分の思いを発表できない生徒が、少人数のグループの中でならば思いを伝えられると考えた。道徳の授業に限らず、普段の授業でグループ学習を取り入れている場合を除き、「なぜグループ学習を行うのか」を教師が明確に持つ必要があるのではないか。
- ・また、グループ学習で話し合う場面において、教師が話し合いの方法を提示することも1つの方法ではあるが、その枠組みが生徒の話し合いの内容を狭めることもあると考えられる。道徳の授業に限らず、分からないことを分からないといえる環境づくりが大切である。
- ・授業案で考えていた内容項目と、生徒の心におちた内容項目にズレが生じるということは、導入の方法や発問によるのではないかと考える。また、資料分析において、資料のもつ道徳的価値を教師がしっかりと捉えておくことが必要だと考える。

### (3) 黒沢幸喜先生よりご指導

- ・普段の授業の中で毎回グループ学習を行っていない場合には、必要感を持たせることが大切である。「問題の焦点化」をすることでグループ学習が進みやすくなる。
- ・いくつかの内容項目を含む資料では、授業者がどの内容項目を目指すのか、押さえておく必要がある。

## **討議題3** 人権教育の単元展開に道徳を位置づけたことについて

### (1) 発表

- ① 飯綱中学校の実践より（発表者：高野健人先生）

### (2) 協議で深まったこと

- ・人権教育の単元展開の第一次に道徳を位置づけたことが、その後の単元展開に繋がったと思う。第一次の道徳の授業によって、「寛容であることの大切さ」を学んだことでその後の授業の価値がより高まったのではないか。
- ・「主人公は悪かったのか、悪くなかったのか」を考える場面があったが、ワークシートの記述欄

が二択に分かれていることが、どちらとも決めきれない生徒にとっては難しかったのではないかと。また、ワークシートに関連して、「書く」という行為によってその内容にこだわりを持つ生徒も多いように感じる。だからこそ、あえて書かせることなく意見を泳がせておくことが、新しい意見を生み出すには必要なこともあるように思う。

- ・このような単元展開の場合、展開の第一次に道徳をもっていくのか、最後の時間に道徳をもっていくのかで、生徒の捉え方にも変化があるように思う。どんな単元展開がより目指していく目標に近づくのかを考えることも必要だろう。

### (3) 黒沢幸喜先生よりご指導

- ・今回のように、リフレーミング（生徒の短所を長所として言い換える）の授業に向けての位置づけとしてよかったのではないかと。道徳の授業のまとめで「人それぞれいいところがあるので、自分も見つけていきたい」と感じた生徒が、その後の授業で実践していったのではないかと。道徳の授業とは、道徳教育における補充・深化・統合であるため、今回のような扱い方も1つの例として考えられる。
- ・道徳とは「心」の動きを感じ、捉えることが大切である。文章や言葉で上手に表すことができなくても、笑顔が見られた等の表情から心をつかむことは可能である。そのために、教師が生徒の道徳的な成長を温かく見守り、その姿を認めることが大切である。また、道徳の授業を扱う前後の成長を教師が見守っていききたい。

## 討議題4 モラルスキルトレーニングを取り入れた道徳教育の在り方

### (1) 発表

- ① 東北中学校の実践より（発表者：飯嶋香織先生）

### (2) 協議で深まったこと

- ・ロールプレイを授業に取り組む際に、「生徒がのってこないのではないだろうか」という思いから、なかなか取り入れることが難しい。しかし、実際に行動しようとする際に、その場面に対して本気で考えることでロールプレイを取り入れることによる力が発揮されるように思う。
- ・ロールプレイを用いた際には、実際に行動をする生徒だけでなく、その姿を見たり、聞いたりする生徒のスキルも伸びるのではないかと考えられる。
- ・非言語が伝えるものを考えることが、道徳が育てようとする「心」の成長に繋がるのではないだろうか。そういった面から考えても、ロールプレイを用いて、方法論になってしまうことがないように気をつけなければならない。

### (3) 黒沢幸喜先生よりご指導

- ・生徒は、様々な道徳的価値から道徳的実践力を身につけていく。このようなモラルスキルトレーニングの授業は、道徳的実践につながる授業ではないだろうか。そういった観点から考えると、こういった新しい方法が評価されるのはこれからではないだろうか。ただ、心が無いのに、その技術だけを身につけても意味がないので、やはり、道徳は技能ではなく、気持ちを育まなければはならない。
- ・道徳では、以前からロールプレイが用いられている。その有効性としては主に、「資料の心情に迫っていくことができる」こと、「即興性から、生徒の本質が現れる」といった2点が上げられる。
- ・道徳の授業は、そのときに生徒に何を身につけて欲しいかではなく、道徳は計画的・発展的に進めていかなければならない。道徳とは、ずっと先のために意図的に仕組むものである。

（文責者 安曇野市立豊科北中学校 今村善隆）

## V 本年度の反省と来年度の方向

### (1) 本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい。(多数)</li> <li>・大きな枠でとらえられる言葉がよい。</li> <li>・年毎に変わっていくのではなく、継続して進められるものがよい。</li> <li>・資料開発を中心においたテーマがよい。</li> <li>・昨年度に続き、テーマは県の道德教育学会のテーマとして、継続していく形がよい。</li> </ul>
○研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な視点からレポートが出されていて、自分にはなかった味方に気付くことができた。</li> <li>・自由に意見、質問が言いやすい雰囲気の中、先生方の多様な考えを聞くことになって勉強になった。</li> </ul>
○研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践されたことについての発表であるため、自分の授業や学級で試してみたいと思え、大変参考になった。</li> <li>・実践された授業を、実際に模擬授業で発表してくださる先生方がいて大変勉強になった。</li> </ul>
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会の人数が少なかったが、返って意見交換ができ、お互いに学びながら参加することができた。</li> <li>・指導者の先生から、その都度、助言をいただけて参考になった。また、司会者の先生もそれぞれを関わらせながら進めてくださり、ありがたかった。</li> </ul>
○研究集録等の Web ページ掲載について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何度かメールにてお知らせをいただいたが、学校のメールに目を通すことが少ないため、メール以外の手段で情報をいただけるとありがたかった。</li> <li>・当日の日程などHPへのアップを、もう少し早く行ってほしかった。</li> </ul>
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、先生方の手厚い歓迎、配慮が大変ありがたかった。</li> <li>・学びの多い一日になった。運営のおかげであった。</li> </ul>

### (2) 来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の道德教育学会のテーマに沿う。</li> <li>・継続したテーマにして、追究しあいながら進めていくことのできるテーマにしていく。</li> </ul>
○来年度の研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料開発をどのように行っていったらよいのかを考えていきたい。</li> <li>・資料からの中心発問の選び出しと、その設定の位置について考えていきたい。</li> <li>・グループ活動の意味や位置づけ方について考えていきたい。</li> </ul>
○来年度の研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料開発の方法</li> <li>・中心発問の設定の仕方</li> <li>・グループ活動の意味づけ</li> </ul>



○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何より内容が重要なことではあるが、できるのであれば、参加者が増えればよいと思う。</li> <li>・無理のないレポートの形式にし、より多くの方の実践があるとよい。</li> </ul>
-------------	---

## VI あとがき

晩秋の一日、県下各地からお集まりいただいた先生方の熱心な発表と討議によりまして、長野県中学校連合教科研究会が、大きな成果をあげて終わることができました。

研究会では、先生方が、題材や展開、学習形態等を工夫しながら実践したレポートをもとに、じっくりと討議することができました。それらは、生徒のよりよく生きる力を引き出そう、かかわりを豊かにしよう、道徳的価値の自覚を深めようという願いが反映されているレポートばかりで、日々の実践で熱心に取り組まれていることがよく分かりました。また、討議の中では、日々の実践上の悩みやそれぞれの実践のよいところを学んでいこうとする先生方の意見ばかりで、明日からの実践に役立てたい、生徒によりよい学校生活、楽しい学校生活を営んで欲しいという先生方の熱意が感じられました。来年度もこのような熱心な研究会にしたいと考えております。

終始適切で温かいご指導をいただきました指導主事の甘利尚之先生、教学指導課の黒沢幸喜先生には、心から御礼申し上げます。また、研究会を実りあるものにしてくださった司会の芝野崇先生、千野正和先生、細かく記録をとり厳しい日程の中で研究のまとめにご苦勞いただいた記録の上條春城先生、今村善隆先生、そして、数々の実践を携え熱心に討議していただいた参会の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

委員 長 鎌倉 大和  
副委員長 内川 才